

1班 1年8組17番 佐藤可惟

東京研修に行ってみての感想

目次、

1. 初めに
- 2, ディレクトフォースについて
- 3, 国立天文台訪問について
- 4, OB・OGとの交流会について
- 5, 最後に

1, 初めに

私がこの研修に参加したのは将来について考えるためです。私には具体的な将来像が思い浮かびません。なので、進路の参考になるよい経験ができると思い参加しました。

私は1日目の体験が印象に残ったのでそのことについて書いていきたいと思います。

2, ディレクトフォースについて

ディレクトフォースでは笹川平和財団にある国際会議場で行われました。笹川平和財団は地球上の問題に対して様々な事業を行っている非営利組織です。笹川平和財団や日本財団、ディレクトフォース支援の会の方々からお話をうかがいました。最初に田中伸男さんの講演がありました。国際機関（IEA）について、またエネルギー問題についてお話いただきました。今計画されているエネルギー問題を解決するプランについての話がおもしろかったです。世界で電気を共有し、リスクも共有するという考えはおもしろいと思いました。

次にグループセッションをしました。みなさん外国との関わりについて話されていました。印象に残った言葉をあげていきたいと思います。

「空気で会話するのを卒業して、言葉で意思を伝えることが大切。」

日本では「空気を読む」という文化が形成されています。実際私も空気を読んで行動することが多いです。むしろ私はコミュ症なので言葉で意思を伝えることがとても苦手です（泣）。しかしグローバル化が進んでいる現代社会において、外国人とコミュニケーションを取ることが多くなります。外国には「空気を読む」という文化はありません。そのような中で、言葉で意思を伝えないと伝わりません。よって普段から言葉で意思を伝えることが大切だと思いました。将来のことを考えると少しずつ「言葉で意思を伝える」力を鍛えていきたいと思いました。

「何かについて話すときには結論を先に言う。」

この言葉は私にとってとても新鮮な言葉でした。なぜなら私は今までぐだぐだ理由を言う前から結論を言っていたからです。こんな感じで文章を構成するのが求められるのではないのでしょうか。英語の文章を読めば分かるように、まず結論を言うからだんだん具体的にしていくのが英語の特徴です。よってぐだぐだ理由を言って最後に結論を言うのは嫌われてしまうのです。これを意識して外国人と話すことが大切だと分かりました。意見を言う場面があれば、これを意識して話したいと思います。

社会に出たときに世界を意識しなくてはいけない今の世の中で、国際的に働いている方々のお話を聞いてとてもよい経験になりました。

3. 国立天文台訪問について

私の班では企業訪問で国立天文台に行きました。国立天文台では重力波観測機を見に行き、事前に送っていた質問に答えていただきました。

まず重力波観測機の見学についてです。私たちは日本初の重力波観測機であるTAMA 300を見せていただきました。重力波観測機では300メートルにも及ぶ管があり、とても迫力がありました。この300メートルの管がTAMA 300の「300」の部分の由来になっているそうです。普段は非公開の施設のため、とても貴重な経験になりました。

次に質問についてです。質問の回答を先に作っていただきました。その中から参考になったものを書いていきたいと思います。

Q, 天体を研究する上で、一番大切なことは何ですか。

A, 疑問を持ち続けること。偏見や固定観念を持っていることに気付くこと。

将来研究職につくかどうかは分かりません。しかしどの道に進んだとしても、新しいものを考え付くことは必要になってきます。そのうえでこの答えは基本の考えになるのではないかと思います。

Q, 天文について研究しようとしたきっかけは何ですか。

A, 本を読んで星や惑星の誕生について興味をもったこと。

職業を決めるきっかけが1冊の本というのはとても衝撃的でした。将来のことというのは自分の周囲のことや、ちょっとしたもので変わるものだと分かりました。日々の生活をいろいろなことに関心をもって送っていきたいと思いました。

今まで知らなかった貴重な装置や、天文のことを知れて面白く、楽しい時間を過ごせました。

4. OB・OGとの交流会について

1日目の夕食後、二高のOB・OGの方とお話しさせていただきました。大学を決めるときには偏差値・難易度で決めず、入ってから何がしたいか、どんなことができるかという観点から決めべきだということをアドバイスいただきました。たくさんの価値観を持った人と関われるなど、東京大学でのメリットや東京という東北とは全く違う環境に身を

置くことの良さについても分かりました。進路というものは大学に入ってからでも決められるということも分かりました。また、高校ではどのように生活すべきかということのアドバイスもいただきました。この交流会を通して私は、自分も上を目指していいのだなと感じました。いまのうちから、上を目指して勉強していこうと思いました。

5, 最後に

この研修は私にとってとても貴重な体験となりました。まず準備の段階です。私たちは興味のある分野がバラバラだったので、決めるのにとっても苦労しました。中学生のときは違い、自分たちで行先を決めて、アポイントメントも自分たちでとるのはとても新鮮でした。研修中では行ったことがない場所で、仙台では考えられないレベルの人の多さの中で、電車を乗り継いで目的地に行ったのもよい経験になりました。班内で意見が割れることもありましたが、特にトラブルもなく行動できたのでよかったです。反省としては準備段階から研修中にいたるまで、副班長としての自覚ある行動ができなかったことです。多くの仕事を班長に任せてしまい、大変忙しくさせてしまいました。また、あまり質問ができなかったことも反省点です。ディレクトフォースでは事前の資料をあまり読み込まなかったのが原因だと思います。OB・OGとの交流会では普段から質問していなかったことが原因だと思います。以上の反省点をふまえて、受け持った役職は自覚を持ってやり遂げる。事前準備を徹底的にする。話を聞くときには質問をすることを心がける。以上のことを念頭においていきたいと思います。進路決定の大切な材料としてこの経験を生かしていきたいと思います。進路に関しては急いで決めなくてはいけないとあせっていたのですが、ゆっくり決めていこうと思いました。さらに、プラスマイナス両方の経験から今後の生活に生かしていきたいと思います。最後になりましたが、ディレクトフォースの皆様、国立天文台の皆様、OB・OGの皆様、そしてこの研修を企画してくださった先生方、本当にありがとうございました。